

感性を育む和学講座

～ 6. お盆と八朔祭り～

お盆とは

お盆は旧暦の7月15日です。古代中国の道教では7月を「鬼月」とされていて、1日には地獄の蓋が開き、中元節の15日には蓋が閉まるとされていました。

日本に元々あった祖霊信仰と仏教が融合された行事です。

お盆は仏教では「盂蘭盆会」と云われます。

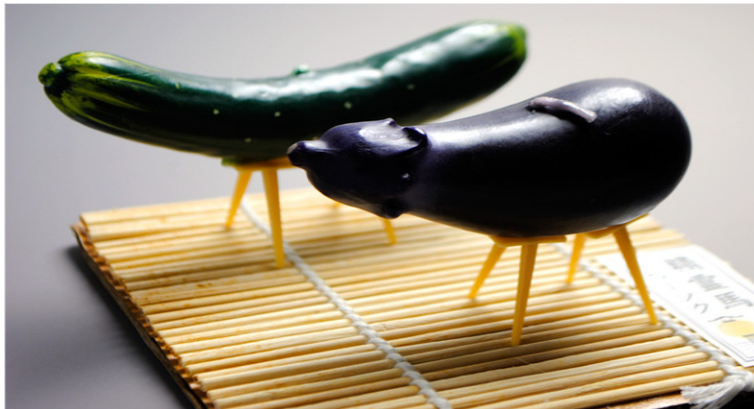
盂蘭盆会の由来に目連の伝説があります。

修行の最中、神通第一の目連尊者が亡くなった母親の姿を探すと、飢餓道に堕ちて苦しんでいるのが見えました。母親を救いたいと思い、釈尊に相談したら修行者たちに、供物を施せば、母親にも届き、救われるだろうと教わり、実践した。

母親は餓鬼から抜け出ることができました。

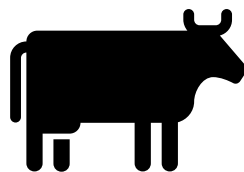
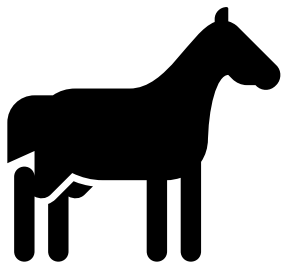
「盂蘭盆会」はサンスクリット語で倒懸(逆さ吊り)という意味があります。しかし、これには諸説あり、定かではありません。

お盆の日程は13日から16日の4日間とされています。



13日の野火は「迎え火」で、ご先祖様を迎える火です。

盆棚には「精霊馬」として、キュウリやナスに割り箸を挿し、キュウリはあの世からご先祖様が早く帰ってくる馬に見立てます。ナスはご先祖様が、あの世にゆっくりお帰りになる牛に見立てるのです。



16日の野火は送り火です。ご先祖様が天に昇って行かれるときに迷わないようにとの願いがこもっています。京都の大文字焼が有名ですね。

地域によっては精霊流しも行います。



盆踊りは地獄で受苦を逃れた亡者たちが喜んでる姿を現していると云われています。文献に登場するのは室町時代のように。平安時代に空也上人が始めた踊念仏と民間習俗の念仏踊りと合わさり、さらに盂蘭盆会と結びつき広まりました。



八朔祭り

旧暦で8月1日は「八朔」といわれ、農村地域では「田の実節供」とも呼ばれました。

旧暦で8月1日は、早苗が実る頃で、初穂を恩人に配る風習がありました。

「田の実」が「頼み」とかけ、公家や武家社会にもお世話になっている人に贈り物をするようになっていったのです。今のお中元と同じですね。

また、徳川幕府では家康が江戸城に入城したのが8月1日とあって、この日は祝日となっていました。

各地で八朔祭りが行われていましたし、現代でも新暦の8月1日、または9月1日に祭りをする地域もあります。

京都の祇園では芸者や舞妓さんが芸事の師匠宅へ挨拶回りを行います。

ちなみに、果物のハッサクは8月1日に食べごろになるから名付けられたそうです。



私の地元の堺では、大浜公園にて7月31日に大魚市が催されます。
8月1日に住吉神社の神輿が宿院の御旅所に渡御されるのに合わせて、漁師たちが魚を持ち寄って奉納するのが始まりで、鎌倉時代からの行事です。
なお、住吉大社は堺の神社でした。



夏から秋にかけては各地で様々な「祭り」が行われます。
代表的な祭りは京都では「祇園祭」。大阪では「天神祭り」。
大阪の夏祭りは「愛染祭り」で始まり、「住吉祭り」で終わるので、「あいすみません」。

夏祭りは疫病退散の祈りが、秋祭りは五穀豊穡の感謝が込められています。
また、祭りを祝い合う世の中になってほしいものです。